

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025/3/31				
リッケラボ（放課後等デイサービス）						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		基本的に児童発達管理責任者、必要に応じて対象児童と信頼関係のある職員が会議に参加し、会議内容を共有している。	引き続き同様な対応を行なっていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		新年度に毎年各機関に挨拶を行い、日常的に福祉課、教育委員会、こども課(行政)や各学校と連携体制ができています。	引き続き、現行の体制を継続していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		必要に応じて会議や顔合わせを行い、送迎調整やトラブル時などその都度調整を行なっている。	引き続き密な連絡調整を行う。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		該当児童がいない。	今後、該当児童が通所する際は情報共有を行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		該当児童がいない。	今後、該当児童が通所する際は情報共有を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		地域に児童発達支援センターがないため、相談員や大学教授などの有識者からスーパーバイズを受けることがある。	地域に児童発達支援センターの設置を市に依頼していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	他事業所の児童との交流を定期的に行なっている。	引き続き事業所以外の地域のこどもと関わる機会を定期的に設ける。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		児童発達管理責任者が代表して参加している。	引き続き参加していく他、現時点で回数が少ないので市に対して協議会の拡充を依頼していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎の申し送りや定期的な面談でこどもの情報を確認したりリッकेでの様子を伝えている。	引き続き保護者と共通理解を持てる機会を確保していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	保護者むけの研修等の周知を行うことがある。	保護者に有益な情報がないか日々情報収集に努め、共有していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時や加算等で、負担額に変更がある場合に説明している。	引き続き、丁寧に説明していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		支援計画を作成する際に、面談や本人からの聞き取り等アセスメントしながら日々の支援でもこどもの意向も確認しながら支援を行なっている。	引き続きこどもや保護者の意向を確認しながらサービスの提供にあたる。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		支援計画の内容を確認してもらい、同意を得ている。内容に変更の希望がある場合は修正している。	引き続き、丁寧に説明し計画の同意を得ていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者からの希望や、事業所が必要性を感じた場合に定期面談とは別で機会を設けて助言や話し合いを行なっている。	引き続き、丁寧な支援を行なっていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	0	5	令和6年度は開催できていない。	令和7年度に開催できるよう持ち方を検討し計画を進める。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情に対する体制の整備をおこなっている。	常に苦情解決の窓口の体制を確認する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	1	HPやSNSを通じて活動やイベントの様子を発信している。	周知回数を増やすほか、内容も改善を進めていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		ネットやPCにセキュリティをかけている他、紙媒体の資料についてはキャビネットに保管している。	引き続き、十分に注意する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		こどもや保護者に対して、理解し職員で共有して配慮して情報伝達を行なっている。	引き続き、十分に行き届いた配慮を行う。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	民生員や地域の議員や住民が事業所見学を行ったり、日頃から開いた運営を行なっている。	今後はイベントへの招待など定期的に地域住民が参加できる機会を設けていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアルを策定して、職員に周知している。	今後保護者に周知をする場面を設けていくように努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		管理者の集まりでBCPを策定し、定期的に確認、見直しを行なっている。	訓練の中に保護者との連絡も今後取り入れていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		緊急時対応記録表を作成し、定期的に保護者にこどもの状況報告も協力をお願いしている。	引き続き、定期的に確認を行う。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		与薬を含め保護者からの申し出（医師の指示書通り）の対応を行なっている。	引き続き、アレルギー対応には十分な注意を払っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全マニュアルを作成し、定期的に事業所の安全確認を行なっている。	安全計画を毎年見直し、環境や利用児童にあったものにアップデートしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全マニュアルに基づき、保護者との連絡体制について共通認識をもって対応している。	安全マニュアルを周知する機会を定期的に設けていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・ヒヤリハットはすぐに共有し対応についての検討を行っている。また、定期的にまとめてヒヤリハットを共有し対策後の振り返りを行っている。	引き続き、ヒヤリハットを共有し、対応策の検討を継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		社内の虐待防止研修の他、外部の虐待防止研修に参加する等の機会を設けている。	引き続き、研修を進める他、お互いに日々の虐待防止に向け全員で連携して支援にあたる。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束が必要な該当児童がいない。	今後該当児童を受け入れる場合に、必要な対応を適切に行う。